200 この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり４本

試読・購読はこちらから

2024年3月3日号　　編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

迫る

最高峰のバレエ団を率いる日本人の芸術監督

3日（日）＝1、3面

バレエ指導者の寺田宜弘（のぶひろ）さん＝**右から２人目**＝は、ウクライナで半生を送ってきました。キーウ（ウクライナの首都、キエフ）のバレエ学校に入るために11歳で渡航。卒業後もこの地で踊り続けました。30代半ばで指導者に転じ、後輩を指導してきました。

バレエ人生は、２０２２年２月に始まったロシアによるウクライナ侵攻で大きく揺らぎました。寺田さんはロシアによる侵攻前に出国し、欧州諸国での避難を余儀なくされたのです。その時、考えもしなかったオファーがありました。所属先であり、国内最高峰とされる「ウクライナ国立バレエ」から、トップの芸術監督への昇格を打診されたのです。迷いましたが、一時帰国した時、親しんだ街の風景を見て、においを感じたことで、芸術監督を引き受ける決意が固まりました。

「芸術の力で戦争にあらがう」。そう誓った寺田さんは、バレエを通して、ウクライナの住民らの心を癒やしています。

戦火がやまない国で、芸術の美しさを、内外に発信し続けている寺田さんの人生に迫ります。

そこが聞きたい

野球と体罰

3日（日）＝くらしナビ面

日本のスポーツ界や部活動では、体罰や暴力が根強く残っています。何度も根絶を誓いながらも、なぜなくならないのでしょうか。「体罰と日本野球」の著書がある高知大の中村哲也准教授＝**写真**＝に聞きます。

閉鎖的な空間で繰り返されるため実証的な研究が難しいなか、プロ野球選手らの自伝や回想録などから考察を深めた中村氏が提示する原因と処方箋とは――。

論点

能登半島地震／ボランティアのあり方は

8日（金）＝オピニオン面

能登半島地震を巡り、「ボランティアの来訪は控えてほしい」との意見が聞かれました。現場の混乱を避けるためです。ただ、ボランティアの人たちが駆けつけなければ、被災地に寄り添った支援はできないのではないか、という考え方もあります。望ましいボランティアのあり方とは？　阪神大震災や東日本大震災といった過去の大災害も踏まえた専門家らの見解をまとめます。

特集ワイド

相次ぐ「私人逮捕系」ユーチューバーの逮捕

4日（月）＝夕刊2面

駅周辺で痴漢や盗撮をした、と疑いをかける「私人逮捕系」の動画も多い＝東京都新宿区のＪＲ新宿駅南口で2023年12月25日、玉城達郎撮影

盗撮や痴漢の犯人だと決めつけて捕まえ、警察に連れていく。そんな一部始終を動画に収め、公開する「私人逮捕系」ユーチューバーが逆に警察に次々と逮捕されています。動画の拡散は、犯罪の抑止につながる可能性があるとはいえ、行き過ぎた取り押さえや冤罪（えんざい）を生む危険性があります。どうすれば悪質な行為を防ぐことができるのでしょうか。

竹橋の窓辺から

編集後記

寒さも徐々に緩み、桜の開花も待ち遠しい季節になりました。新年度から何か新しいことを始めたいというご家族に、毎日小学生新聞はいかがでしょうか。ただいま「ご入学・ご進級応援キャンペーン」を受け付け中です。読解力や時事力が身につく「毎小ニュース日記」をプレゼント。詳しくはＱＲから。ぜひご覧ください。

（斎藤広子）

毎日新聞

※都合によっては掲載日や内容を変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。